

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201460		
法人名	社会福祉法人 嶽陽会		
事業所名	グループホーム パインの街Ⅰ		
所在地	青森県弘前市原ヶ平字山元118-1		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所全体で「接遇」を重点目標にし、レベルアップに向けて、サービスの質の向上を目指しており、職員一人ひとりが目標を掲げて、意識しながら、利用者が気持ちよく過ごしていただけるように努めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域住民との良好な関係の下、家庭的な環境の中で、利用者は穏やかで安らぎのある生活を送っており、職員は利用者のこれまでの生活習慣を大切に考え、重度化や終末期に至るまで、安心して暮らせるように支援している。 また、管理者と職員の関係も良好で、職員は個々に目標や向上心を持ち、日々のサービス提供に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングで唱和することで、介護従事者各々が共有し、意識をもって実践につなげている。	地域密着型サービスの必要性や役割を十分に理解し、ホーム独自の理念を作成しており、朝礼で唱和したり、目の届く所に提示して共有している。職員は利用者個人の尊重を大切にしたサービスを提供するよう、日々、心がけて支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の夏祭り・幼稚園運動会等に参加している他、地域の食堂から出前をとったり、美容院を利用し、交流をもっている。	ホーム周辺が中・高等学校や食堂、りんご畑に囲まれている等、環境に恵まれている状況である。町内の祭りに参加したり、近隣の学生の来訪やりんご畑の作業員との会話、あるいは隣の食堂から出前を取る等の交流を通じて、事業所を理解してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のプライバシーに配慮した上で、いつでも見学、訪問ができるように備えている。また、学生の実習やボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換、意見やアドバイスを取り入れ、サービスの向上に努めている。また、会議の内容はいつでも閲覧できるようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、メンバーの都合に合わせて開催し、全員が参加できるように配慮している。会議では、ホームの事業報告や行事報告、利用者の日々の生活状況等を報告し、情報交換をしながら、メンバーの意見を引き出す工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加の他、外部評価の結果報告、待機者状況の報告を行っている。また、必要に応じて、利用者、家族間が円滑な状況を維持できるよう、連携を図っている。	運営推進会議に市役所職員は年1回程度、地域包括支援センター職員は毎回参加しており、ホームの実情を報告している。また、何かあった際は電話や訪問をして相談したり、時にはホームに来ていただく等、密に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修への参加や、各マニュアルを館内に掲示することで、更なる意識向上をし、互いに声をかけ合って業務に取り組んでいる。	身体拘束廃止宣言をしており、内部研修や外部研修を行って理解を深め、職員一丸となり、身体拘束をしないケアを実践している。また、マニュアルも作成して共有している他、職員は利用者の日々の状況を観察し、引き継ぎや報告を頻繁に行う等、連携を図りながら支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外研修への参加、マニュアルを館内に掲示し、全職員が理解して、意識を持って業務に臨んでいる。また、管理者は職員各々とコミュニケーションをとり、心理的なケアにつなげることで、高齢者虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や会議で学ぶ機会を設けており、各職員が理解し、必要なケースに応じて関係者と話し合い、制度を活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時はもちろん、締結時にも利用者や家族の不安や疑問を尋ね、納得できるよう、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の他、いつでも気軽に意見や要望を述べていただけるような会話の持ち方に努めている。また、玄関に意見箱を設置し、外部へ意見を表せる機会を設けている。	玄関に意見箱を設置すると共に、契約時には重要事項で相談機関を説明し、ホーム内にも提示している。意見や苦情を引き出せるよう、家族の面会時にも働きかけている他、利用者には日常的な関わりの中で、表情や言動から汲み取るように努めている。また、出された意見等には速やかに対応し、話し合い、より良いホーム運営のために活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング時等に、職員が意見や提案を出せる機会を設けている。また、随時検討し、反映させている。	ミーティングや職員会議、研修会等で職員の意見や提案を聞く機会があり、職員間のコミュニケーションを図りながら、より良いホーム運営、サービス提供のために、出された意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(理事長)は人事考課にて職員個々のスキルを把握する他、事業所巡回にて日常の状態確認を行い、各職員がキャリアアップできるよう、昇格、昇給等の機会も与えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の誰もが法人内外の研修を受ける機会が設けられており、更なるスキルアップの取り組みを行っている。また、代表者は個々の状況を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修等で意見交換や交流できる場に参加することで、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のニーズを傾聴し、安心していただけるよう、定期的に意見・要望を確認し、会話を持つことで、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、希望、ニーズを把握し、小さな疑問や不安も解消できるように話し合いを行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人達が自分達主体として暮らしていると思えるような支援を行い、関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人を思う家族の気持ちを尊重しながら、本人と家族の絆を守り、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院や食堂を利用したり、クリニックの利用に付き添ったりと、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時のアセスメントや日々の会話、家族からの情報等で、馴染みの人や場所の把握に努めている。また、馴染みの美・理容店、商店等へ出かけている他、季節の風習や行事も取り入れながら、馴染みの場所に出かけることができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが互いに協力し、心地良く過ごせるような関係づくりの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても本人や家族との関係性を大切に、ケアマネージャーを通じて状況確認を行い、必要に応じて相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話で希望や思いを把握し、実現できるように努めている。困難な場合、家族や職員同士で意見を話し合い、検討している。	入居時に利用者や家族から聞き取りを行い、意向の把握に努めており、必要に応じて、利用者をよく知る関係者からも情報収集している。入居後は、担当職員が利用者と馴染みの関係を築きながら、全職員で一人ひとりの思いや意向を汲み取り、情報を共有しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や好きな事を本人や家族から聞き、これまでの馴染みの暮らし方に沿った生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能に適した作業等を行っていただくことで、本人の現状把握、ADLの低下防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしていけるよう、家族の面会時等に本人を交えて話し合い、意見やアイデアを取り入れている。	利用者や家族から意見や希望を確認し、全職員で話し合い、個別具体化された介護計画を作成している。また、利用者の状態や、利用者・家族の希望等に変化があった際は、随時見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議や介護計画終了時のケアカンファレンスにて、職員間で気づいた事等を話し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所では居宅介護支援事業所やデイサービス、母体には特別養護老人ホームがあり、その方のニーズに対応できるよう、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や消防団等、地域の状況を把握しており、本人が安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで利用していた医療機関を受診できるよう支援し、かかりつけ医と連携を図り、必要に応じて往診を受け入れるように支援している。	これまでの受療状況を把握し、かかりつけ医を継続して受診できるように支援している。また、本人の症状に合った医療機関を提案する等、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、デイサービスの看護職員の巡回があり、利用者の状況報告や指導の体制を整えている。また、母体施設より看護師が定期的に巡回し、適切な対応が行えるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を詳しく説明し、できるだけ早く通院できるよう、面会時に話し合いを行っている。また、家族との連絡も密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会時等、本人や家族と早い段階から話し合いを行っている。	指針を作成してホームとしての方針を明確にしており、入居時に話し合いを行っている。利用者の状態に変化があった際は、家族や関係者、医療機関や法人看護師と再度意思統一を図り、支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修、マニュアルの活用、看護師の指導により、応急手当等の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがあり、緊急連絡網を作成し、また、毎月1週間の避難訓練を実施して、全職員の統一を図っている。	年2回の訓練を実施している他、災害発生時に備え、誰でもわかる場所に水や食料等を準備し、避難路にも不要物を置かないようにしている。また、毎月1週間、夜間を想定した避難訓練にも取り組んでおり、災害状況や災害場所に合わせ、優先的に避難誘導をする方を常に確認している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、今できる事、誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけに注意しながら支援している。	ホーム全体で「接遇」を重点目標として取り組み、職員は利用者の言動を否定せず、受容的な姿勢で対応している。また、利用者を「ちゃん」付けやニックネームでは決して呼ばず、「さん」付けで呼びかけている他、介助時は利用者の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を確認したり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや能力に合わせ、無理のないよう、楽しく活動できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、本人に選んでいただく等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備したり、一人ひとりの好みを知り、楽しい食事ができるように支援している。	利用者のできる範囲で、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。職員は声かけや食べこぼしのサポートを行い、家族のように和気あいあいと会話しながら、楽しく食事時間を過ごせるように、支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、形状を変えたり、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄状況を記録し、パターンを把握することで、自立に向けた排泄支援が行われている。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ、時には医師や看護師に相談したり、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	曜日や時間帯は大体決まっているが、一人ひとりの健康状態も考慮しながら、個々に応じた支援をしている。	毎日入浴できる体制を整えており、週2回は必ず入浴できるように支援している。また、一人ひとりの入浴習慣や希望、体調や羞恥心にも配慮しながら、個々に合わせた入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。飲み忘れや誤薬がないよう、確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の役割を持ち、楽しみながら活動し、精神が安定できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調等も考慮しながら、できるだけ参加できるように支援している。	近隣への散歩や買い物等、日頃から外へ出る機会を設け、利用者の気分転換を図っている。また、地域の行事や季節を感じる場所へも外出行事で出かけており、家族にもお知らせし、協力を働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理は、個々の能力等に応じ、所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が居心地の良い場であるように配慮し、生活感や季節感を取り入れながら支援している。	季節の花や飾り付け等で、利用者が四季の変化を感じられるように工夫している。また、職員の話し方は穏やかで、テレビや音楽等の音量も適度なものとなっており、利用者が心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置の工夫等、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態を考慮しながら、居心地良く過ごせるように工夫している。	入居時に、馴染みの物を持ち込む必要性について説明し、以前から愛用していた物の持ち込みが行われている。また、担当職員と一緒に、利用者が生活しやすい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」、「わかる事」、目印となる物を配置したり、整理整頓を心がけ、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		